

秋田県

研究協力校（課程又は障害種）

- ・秋田県立比内支援学校（知的）
- ・秋田県立比内支援学校かづの校（知的）
- ・秋田県立比内支援学校たかのす校（知的）
- ・秋田県立大曲支援学校（知的）
- ・秋田県立大曲支援学校せんぼく校（知的）

研究の成果

観点 1：

各モデル事業内、及び近隣自治体間における概念（用語）の共通理解・合意形成

1-1. 秋田県教育委員会における取組

秋田県教育委員会は、平成 30 年度に「第二次秋田県特別支援教育総合整備計画」（平成 25 年度～平成 29 年度）と同様の基本理念「自立と社会参加」を掲げ、目的に「インクルーシブ教育システムの理念に基づく共生社会の形成」を新たに加えた「第三次秋田県特別支援教育総合整備計画」（平成 30 年度～令和 4 年度）を策定した。特別支援教育に対する理解推進のため、地域の関係機関同士の連携を推進し、障害のある児童生徒等が地域の方々とともに活動する場づくりを進め、情報発信を積極的に行っている。

秋田県教育委員会においては、特別支援学校を対象とした校務分掌別の会議や副校長・教頭・分掌主任参加の教育課程研修会の中で、新学習指導要領に係る内容を扱ったことにより、改訂の趣旨に対する参加者の共通理解の深まりにつながった。また、各特別支援学校の担当者による自立活動に関する授業改善プロジェクトチームを組織し、研修会や授業研究会等を実施した。これによって、個別の指導計画の重要性や自立活動の時間における指導の授業づくりの要点等、参加者の新学習指導要領の趣旨に対する理解が深まった。授業改善プロジェクトの取組を各校に還元するために、実践記録集を作成して県内の各特別支援学校に配付した。

1-2. 研究指定校における取組

秋田県立大曲支援学校せんぼく校（以下、「せんぼく校」）は、「社会に開かれた教育課程」をテーマとした研究協力校として、地域資源活用を中心に据えた教育課程の編成を推進するために、学校教育目標とキャリア教育全体計画、地域資源活用の学習活動との関連を明確に示し、全職員で共有した。また、平成 29 年度に設定した各学部の地域資源活用のキーワ

ードをさらに具体化し、育てたい姿やそのための指導内容について、授業実践を通して検討した。この取組により、各学部において、系統性を踏まえて指導計画が作成され、個々の児童生徒の発達段階や学習経験等の違いを考慮した授業づくりが行われた。

その他の研究協力校においては、児童生徒に育てたい力を育む上で「主体的・対話的で深い学び」の実現が重要であることについて、授業実践の積み重ねを通して共通理解が進んだ。また、実践の成果と課題を整理することにより、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりの要点を見いだした。

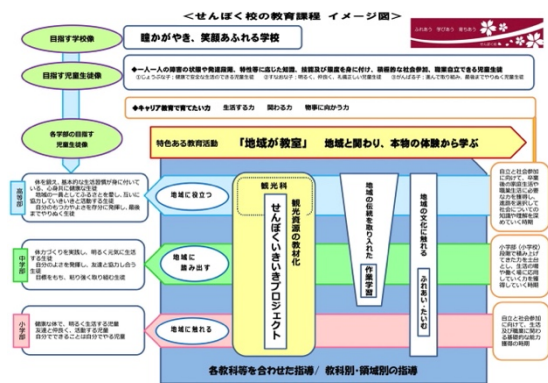
観点 2 :

教育課程・個別の指導計画の実施状況とその評価

2. 地域の特色を生かした教育課程の編成（せんぼく校）

せんぼく校は、地域の特色を生かした教育課程の編成に関する研究を2年計画で行っている。平成29年度は、地域資源を活用した学習活動を学部ごとに設定し、キャリア教育全体計画をよりどころとして指導計画や指導内容を検討しながら、教育課程の編成や授業づくりを行った。2年目の平成30年度は、各学部の地域資源活用におけるキーワードの捉えの具体化や学年ごとの系統性を踏まえた指導計画の作成等に重点が置かれた（資料1）。

地域資源活用のキーワードは、小学部では「地域に触れる」、中学部では「地域に踏み出す」、高等部では「地域に役立つ」と設定している。これらを、小学部では「地域と出会う、地域を表現する」、中学部では「地域を知る、地域を伝える」、高等部では「地域を理解する、地域のよさを発信する」と具体化し、それを基にした授業づくりや教育課程の編成を行った。また、それらを全職員で共有し、学部または分掌部等の反省にも反映させながら教育課程を改善するという意図も高まった。公開研究会では大勢の参加者から生徒たちの「物怖じしないコミュニケーション力」が評価されたことから、地域資源活用によって育てることができる「コミュニケーション力」を意識して、今後の授業づくりや教育課程の編成・改善にも生かしていくことを確認している。



平成30年度 せんぼく校 地域資源活用の学習活動について

地域が教室 ～地域と関わり、本物の体験から学ぶ～

<目的> 地域で本物に触れる体験を通して、地域への理解を深め、自分たちから問題に働きかけることで、将来、地域の一員として生活していくための力を身に付けることを目指す。

各学部の 地域資源活用の キーワード	教育課程・各教科等々合わせた指導 「せんぼくいきいきプロジェクト」 (教科領域の教科科目) ※種別異なる教科として取り、科目別であるものの協力も あり、協働授業 学 部 全 校	特別活動 「ふれあい活動」	作業学習	総合的な学習の 時間性	交流及び他学部 交流活動	
高 等 部	地域に役立つ ・地域を知る ・地域のよさを 発信する	観光地 ・「ふれあいプロジェクト」 ・「めいごプロジェクト」 ・観光地資源の活用 ・観光プランニング ・観光プランの策定・実施 ・観光地の調査・研究 ・ふるさと大使 ・観光大使の育成 ・観光大使の育成 ・観光大使の育成	伝統と手織り の製作作り イタダキ (おたけ)	種別工 芸製作 農業体験 地域資源 活用学習 活動	地域の文化に関する 活動、工場、職工業 体験学習	地域の人材等の活用 学校間 研修 活動
中 学 部	地域に踏み出す ・地域を知る ・地域を伝える	生涯学習 「おたけくらや」 ・地域を知る ・地域を伝える	伝統と手織り の製作作り イタダキ 種別工 芸製作 農業体験 地域資源 活用学習 活動	地域の文化に関する 活動、工場、職工業 体験学習	地域の文化に関する 活動、工場、職工業 体験学習	
小 学 部	地域に触れる ・地域を知る ・地域を表現する	生活学習 ・地域を知る ・地域を表現する	伝統と手織り の製作作り イタダキ 種別工 芸製作 農業体験 地域資源 活用学習 活動	地域の文化に関する 活動、工場、職工業 体験学習	地域の文化に関する 活動、工場、職工業 体験学習	

資料1 「せんぼくいきいきプロジェクト」

観点 3：

個のニーズに合わせた指導法、学習環境・支援の工夫

3. 「たかのす校スタンダード」(秋田県立比内支援学校たかのす校)

秋田県立比内支援学校たかのす校(以下、「たかのす校」)は、自分の力を発揮する姿を育てる授業づくりを2年計画で行っている。平成29年度の研究では、地域に根ざし、地域と共に生きる教育活動である「絆プロジェクト」のねらいや身に付きたい資質・能力を検討し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善を繰り返した。これらの結果、効果的な教育課程の計画・実施・評価・改善が行われ、「絆プロジェクト」が充実した。2年目の平成30年度も有効な研究内容・方法として継続して行った。

学部ごとの「重点一覧」(資料2)、「絆プロジェクト単元・題材一覧」(資料3)を活用した計画・実施・評価・改善は、システムとして位置付けており、定着している。「重点一覧」は学部評価の様式も兼ね、学部の重点を実現するための取組につながる。絆プロジェクト単元・題材一覧を基に単元・題材の配列や関連等を確認することで、年間の取組がわかり、計画が立てやすく、見直しやすい。これらの活用により、指導計画や取り扱う指導の形態が修正された。これらを授業づくりの基礎・基本となる資料をまとめた冊子「たかのす校スタンダード」に組み入れたことで、活用する用途や時期がわかり、全職員がカリキュラム・マネジメントに参画できるようになり、職員の意識を高めるためのよい

ツール、システムとなった。

平成29年度に引き続き「絆プロジェクト」全体で、キャリアノートを事前・事後学習に活用した。授業でも振り返りの過程が設けられ、児童生徒が学習を振り返る機会が多くなったため、児童生徒自身が目的を理解して学びに向かい、意味付けする活動として定着し、学びや自身の成長を実感するためのツールとなった。キャリアノートを活用して4年目となったため、年度を越えた振り返りができるようになった。

平成30年度比内支援学校たかのす校 高等部 「重点一覧」【年間】

【学校教育目標】		【重点一覧】
児童生徒一人一人の障害の状態や発達段階、特性に応じた教育環境を整備し、個別の指導計画の達成を目指し、一人一人の可能性を最大限に引き出しながら、自主的に社会参加できる力の養成を目指す。 【目指す子ども像(校訓)】 ・健康・・・心身ともに健康になろうと努力する子ども ・誠実・・・喜びをもって第一歩努力する子ども ・自立・・・自分のことは自分で成し遂げようとする子ども 【学校の重点】 ・地域と共に育ち、地域に感謝される学校づくりを推進する。 ・「子どもの思いや願いに応える」をキーワードとし、社会に参加する力を育む教育活動・実践研究を推進する。 ・公開研究会による地域への新たな発信と専門性を生かした指導支援の充実と安全・安心な学校づくりを推進する。		
【目指す子ども像】	【高等部の目指す生徒像】	【重点一覧】
健康	健康で規則正しい生活を心掛け、進んで体力づくりに取り組む生徒	健康
誠実	高等部生としての自覚をもち、互いを認め、高め合う生徒	誠実
自立	将来の生活のために、自分に必要な力を積極的に身に付けようとする生徒	自立
高等部の重点	重点に関する主な取組	実施時期・連携する分掌等
・目標に向かって継続して運動に取り組む生徒の育成 ・健康で衛生面に気を付けながら生活するための保健指導の実施 ・進んで元気にあいさつする生徒の育成と時間を守って生活する習慣の定着	・チャレンジタイムと全校記録会(6回)での目標設定と実施 ・2か月に1回程度の保健の時間の設定と実施 保健担当者と学級担任間の情報共有(学部会等) ・生徒指導部と連携して取り組むあいさつ強調週間の設定と指導 ・生徒の内面を揺さぶる効果的な指導の実施 校内・現場実習期間前後 絆カフェ・ショップ出店の事前事後学習 ・終結時刻の周知と厳守の徹底(学部集会、各学習場面)	・年間：絆7777担当、農園係部 ・5月末・7月上旬・9月末・11月上旬 担任、保健担当、養護教諭、農園係部 ・3・9・11月 生徒指導部、担任 ・5月末・7月上旬・9月末・11月上旬 担任、連絡学習担当 ・絆7777の出店の事前事後学習時、絆7777担当、担任 ・年間：学部主事、担任、教務等担当
・生徒同士が互いの長さを認め、協力して取り組む活動の推進	・高等部生としての役割やまもりを守って生活する態度の育成 ・絆プロジェクトの実施と発展(考える・伝える・発揮する力の育成) 絆カフェ・ショップ：地域振興局での定期実施(3回) 地域行事への出店(3回) 地域貢献活動：プランター設置活動、除雪・除草ボランティア、次代型花火観望活動、100キロマラソンボランティア	・年間：絆7777担当、研究部、中学部 ・7・8・11月、除雪・除草ボランティア、高等部担当、中学部 ・保護者との協働がラゲッジ活動(7・9月)、教務部 ・整理目録(取組)の設定と指導：担任
・体系的実地的な学習を工夫しながら進める学習活動の推進	・生徒が身の回りの事を自分で管理し取り組むための環境設定と指導 ・連絡学習の年間指導計画の共有と実施及び学習状況の把握 ・地域の資源と人材を活用した6次産業化の推進と作業製品の品質向上 ・主権者教育の継続実施：4回程度	・学部会での共有：連絡指導主事、連絡指導部 ・年間：作業担当、学部主事、農園係部 ・12・1・2月：主権者教育担当、生徒指導部、担任



高等部

資料2 「重点一覧」

平成30年度 高等部 絆プロジェクト単元・題材一覧		目指す姿：自分の良さに気付いて、得意なことや自信をもって取り組む姿		大切にしたい経験：主体的に地域に貢献し、自分の良さに気付く経験								
育てたい資質・能力(高等部)		知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等								
国語「正確に内容を伝える」「敬語で話す」等 社会「相手のことを考えながら行動する」等 数学「日常生活に必要な数量の地理や計算」等		職業「働く喜び」「分担に責任をもつ」等 家庭「道具の正しい使い方」「安全・衛生」等 流通・サービス「商品管理」「販売」等	・自分なりの意見をもち、相手に伝える ・相手の意見を受け入れながらさらに考えを深める ・相手の気持ちや周囲の状況等を考え、より良い行動を選択する	・自分の役割を理解して、責任をもって取り組む ・友達と協力しながら意見交換をしたり、物事を決めたりする。 ・様々な活動に自信をもって取り組む								
教科、学習グループ等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
絆プロジェクト 生活単元 学習 (主にカフェ・ショップ)	カフェグループ	絆カフェ・プロジェクトⅠ(ふるさと譲りと贈りこまつり)		絆カフェ・ショップ(地域出店～北秋田市地域振興局)		5.7.9.11.12月		絆カフェ・プロジェクトⅢ(ふれあいフェスタ)		絆カフェ・プロジェクトⅣ(いとく販売会)		次年度に向けて
	ショップグループ	絆カフェ・プロジェクトⅡ(市民病院祭)		絆カフェ・プロジェクトⅢ(ふれあいフェスタ)		絆カフェ・プロジェクトⅣ(いとく販売会)		絆カフェ・プロジェクトⅤ(いとく販売会)		絆カフェ・プロジェクトⅥ(いとく販売会)		
	総合的な学習の時間(主にグループ)	絆カフェ・プロジェクトⅠ(ふるさと譲りと贈りこまつり)		絆カフェ・プロジェクトⅡ(市民病院祭)		絆カフェ・プロジェクトⅢ(ふれあいフェスタ)		絆カフェ・プロジェクトⅣ(いとく販売会)		絆カフェ・プロジェクトⅤ(いとく販売会)		次年度に向けて
	地域行事への参加	絆カフェ・プロジェクトⅠ(ふるさと譲りと贈りこまつり)		絆カフェ・プロジェクトⅡ(市民病院祭)		絆カフェ・プロジェクトⅢ(ふれあいフェスタ)		絆カフェ・プロジェクトⅣ(いとく販売会)		絆カフェ・プロジェクトⅤ(いとく販売会)		次年度に向けて
絆プロジェクト 作業学習 (主にショップ)	木工・手工芸	絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて
	農業	絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて
	日常生活の指導	絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて
	国語	絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて
絆プロジェクトを支える活動	数学	絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて
	音楽	絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて
	美術	絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて
	保健体育	絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて
進路・実習	絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて	
道徳	絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて	
特別活動	絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて	
生活単元学習(47・57以外)	絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて		絆ショップ販売に向けて	

資料3 「絆プロジェクト単元・題材一覧」

観点4：

障害のない幼児児童生徒・地域社会との交流及び共同学習の設定

4. 児童生徒の人と関わる力を高める授業づくり(秋田県立比内支援学校かづの校)

秋田県立比内支援学校かづの校(以下、「かづの校」)は、在籍する児童生徒の実態から、他者と協力する力、助け合う力、人に頼る力、折り合いを付ける力など、人と関わる力を伸ばしていくための授業づくりをすることに重点を置いている。研究においても、人や地域と関わる力につながる、一人一人の主体的な参加や学び合う態度などをテーマにした取組を重ねてきた。

平成29年度からは、新学習指導要領を踏まえて、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、「人と関わる力を高めるための授業づくり」を研究主題として取り組んでいる。児童生徒の自立と社会参加につなげるために、全校縦割りグループでのりんごに関わる活動と学部ごとの地域との学習活動を合わせた「りんごプロジェクト」(資料4)を中心とした教育課程を編成し、人と関わる力を高めるための指導内容・方法を明らかにすること等を目的としている。

平成30年度は、各学部の合同生活単元学習において、養護老人ホームとの交流会(小学部)、保育園児とのパーティー(中学部)、小学校での「リンゴレンジャーショー」公演(高

等部)等、地域社会との交流を扱う単元が年間を通して設定された。地域での学習活動に繰り返し取り組むことによって、児童生徒が活動への期待感を持ち、地域社会への興味・関心を高めながら活動に向かう姿が見られた。地域での学習活動を教育課程に明確に位置付けて取り組んだことで、児童生徒が地域のよさに気付くことができ、自信をもって地域と共に活動することにつながっている。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
りんごの栽培		オリエンテーション 花摘み		袋掛け		袋はがし	葉摘み・玉回し	収穫	小国支援学校へりんごを送ろう			
全校縦割制作活動 (熊本県小国支援学校との交流)	ジュース販売		デザイン話し合い①	デザイン話し合い②	制作①	制作②	制作③	制作④	りんごと一緒に発送		りんご販売	ジュース販売
小学部 まるまる 〇〇 大作戦	みんなで紙すきに挑戦 ＜内容＞ ・児童の実態把握	パート1～和光園のおじいちゃんおばあちゃんと七夕会をしよう ＜内容＞ ・紙すき ・プログラム作り ・楽器作り ・和光園との交流会2回	パート2～中学部と協力！ハロウィンパーティーで使う紙を作ろう ＜内容＞ ・紙すき ・保育園とのビデオ交流 ・中学部との交流 (紙すきのアドバイス)	パート3～みんなニコニコ！花輪北小の友達となかよしりんごパーティーをしよう ＜内容＞ ・紙すき ・プレゼント作り ・楽器作り ・〇〇大作戦会議 ・北小との交流会2回 ・北小とのビデオレター交流3回	パート4～リンゴンジャーのポスターを作ろう ＜内容＞ ・ポスター制作 ・リンゴンジャーとの交流	パート5～保育園児に紙すきを教えよう ＜内容＞ ・保育園との紙すき交流会						
中学部 にっこりに パン屋さん	届けよう！にっこりにパン パート1～運動会のパン食い競争へ～ ＜内容＞ ・副校長先生からの依頼 ・パン作りの練習、作戦会議 ・運動会パン食い競争へのパン提供 (試食会、アンケート) ・振り返り	届けよう！にっこりにパン パート2～新しいパンを作ろう～ ＜内容＞ ・リンゴンジャーからの依頼 ・新しいパンの開発(模型作り、パン試作、高等部への試食・インタビュー、作戦会議) ・ハローワークボランティアへのパンのお届け ・振り返り	届けよう！にっこりにパン パート3～保育園とパーティーをしよう～ ＜内容＞ ・保育園からの依頼 ・ポスター、招待状の制作 ・保育園の見学 ・パーティーの計画、立案① ・パーティーの準備①(調理、校内) ・ハロウィンパーティー ・反省会	届けよう！にっこりにパン パート3～保育園とパーティーをしよう～ ＜内容＞ ・パーティーの計画、立案② ・パーティーの準備② (保育園、校内) ・クリスマスパーティー ・振り返り								
高等部 リンゴンジャー 活動!!2018		保育園公演編 ＜内容＞ ・保育園6カ所での公演 ・不審者対応編、交通安全編の2つのテーマで、ニュースのある方を ・地域のニーズに応えることをテーマに	特別公演編 ＜内容＞ ・地域のイベントでの公演 ・地域の方を喜ばせることをテーマに	学習発表会編 ・花輪 ・はやしをテーマに	花輪小公演編 (メインステージ) ＜内容＞ ・配役、内容は自分たちで決める ⇒ポイントに準じて ・全員参加で	新規公演編 ＜内容＞ ・1、2年のメンバーでの公演 ・新しい場所(鹿角カトリック幼稚園) ・次年度に向けて						
			NEXCO キャンペーン		NEXCO キャンペーン							

資料4 「りんごプロジェクト全体構想」

観点5：

多面的な視点からの学習評価・授業評価・学校評価の実施

5-1. 児童生徒の「学び」と「学んだことの活用」を生み出す授業づくり(秋田県立比内支援学校)

秋田県立比内支援学校(以下、「比内支援学校」)では、平成29年度に引き続き、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりの充実と、「観点別学習状況の評価」を取り入れた学習状況や授業、指導の丁寧な評価を目的として実践研究に取り組んだ。各学習グループの抽出児童生徒に対して、「観点別学習状況の評価」による学習評価を行い、エピソードの記録を基に児童生徒の変容を捉えたところ、設定した目標を達成したことが示された(資料5)。

外部からの評価を得る機会としては、全校授業研究会や公開研究会を活用している。平成29年度は、公開研究会の授業提示と研究説明を通して、比内支援学校の特色ある教育課程の編成、実施、評価の取組について伝え、参加者から概ね良好との評価を得ている。平成30年度は、公開研究会の参観者にアンケートを行い、それを基に授業及び教育課程についての評価を行っている。

これらの取組を通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりに有効な方策を見だし、「授業・単元づくりのポイント」として整理した。その中で、児童生徒による学習評価については、「学習の目的に対してうまくできた、あるいは、うまくできなかった理由や、それを踏まえて、次にどうすればよいかを見児童生徒自身の言葉で語らせ、共有する」ことを挙げている。

生徒のエピソード①

クラス	中学部 1年	氏名	抽出生徒名
知識・技能	「(9/4)ハンガリーにスタンションで付いた色がじんだ。左腕の袖付けがきれいに仕上がっているを見て、袖の長を少しだけ縮らなければならないことに気がついた。」	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
小単元①	(9/7)色画用紙をワザで糊に貼付けた。めようは貼り付けた。袖の部分に切り取ってワザを貼付けた。ワザで貼った小紙をピンチで貼っている。裁断は「袖の部分は、まっすぐに貼る必要がある」という指示があった。貼り直した。お車着りに使ってもらおうという授業を、まだもてずにいる。	(9/7)色画用紙をワザで糊に貼付けた。めようは貼り付けた。袖の部分に切り取ってワザを貼付けた。ワザで貼った小紙をピンチで貼っている。裁断は「袖の部分は、まっすぐに貼る必要がある」という指示があった。貼り直した。お車着りに使ってもらおうという授業を、まだもてずにいる。	(9/7)色画用紙をワザで糊に貼付けた。めようは貼り付けた。袖の部分に切り取ってワザを貼付けた。ワザで貼った小紙をピンチで貼っている。裁断は「袖の部分は、まっすぐに貼る必要がある」という指示があった。貼り直した。お車着りに使ってもらおうという授業を、まだもてずにいる。
		(9/13)お車着りに使ってもらおうという授業を、まだもてずにいる。お車着りに使ってもらおうという授業を、まだもてずにいる。お車着りに使ってもらおうという授業を、まだもてずにいる。	

(中学部1年「着がけに英語を添えようよきこい盛り上げグッズとプレゼントを作ろう」抽出生徒のエピソード①)

生徒のエピソード②

クラス	中学部 1年	氏名	抽出生徒名
知識・技能	「(9/4)ハンガリーにスタンションで付いた色がじんだ。左腕の袖付けがきれいに仕上がっているを見て、袖の長を少しだけ縮らなければならないことに気がついた。」	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
小単元①	(9/7)色画用紙をワザで糊に貼付けた。めようは貼り付けた。袖の部分に切り取ってワザを貼付けた。ワザで貼った小紙をピンチで貼っている。裁断は「袖の部分は、まっすぐに貼る必要がある」という指示があった。貼り直した。お車着りに使ってもらおうという授業を、まだもてずにいる。	(9/7)色画用紙をワザで糊に貼付けた。めようは貼り付けた。袖の部分に切り取ってワザを貼付けた。ワザで貼った小紙をピンチで貼っている。裁断は「袖の部分は、まっすぐに貼る必要がある」という指示があった。貼り直した。お車着りに使ってもらおうという授業を、まだもてずにいる。	(9/7)色画用紙をワザで糊に貼付けた。めようは貼り付けた。袖の部分に切り取ってワザを貼付けた。ワザで貼った小紙をピンチで貼っている。裁断は「袖の部分は、まっすぐに貼る必要がある」という指示があった。貼り直した。お車着りに使ってもらおうという授業を、まだもてずにいる。
		(9/13)お車着りに使ってもらおうという授業を、まだもてずにいる。お車着りに使ってもらおうという授業を、まだもてずにいる。お車着りに使ってもらおうという授業を、まだもてずにいる。	

(中学部1年「着がけに英語を添えようよきこい盛り上げグッズとプレゼントを作ろう」抽出生徒のエピソード②)

資料5 「生徒のエピソード」

5-2. 「分かる、できる、振り返る」授業づくり～学びが繋がる 人とつながる～（秋田県立大曲支援学校）

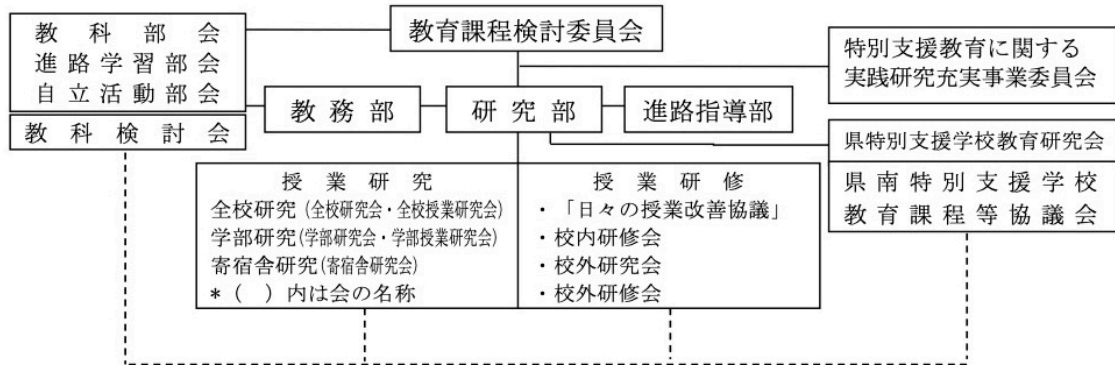
秋田県立大曲支援学校（以下、「大曲支援学校」）は、平成29年度に、これまでの研究から出された授業づくりの課題から「授業づくりの視点」を作成し、「分かる、できる、振り返る」授業を目指して評価、改善を行い、授業実践を積み重ねた。学部と地域の関わり方を整理し、地域資源の効果的な活用の仕方を検討したことで、各学部・学年の学習の中心となる長期的単元が設定され、児童生徒が見通しをもてる取組となった。

平成30年度は、研究副題を「学びが繋がる 人とつながる」とし、生活単元学習を研究対象とした。公開研究会、全校授業研究会での授業提示に当たっては、授業者、学部主事、研究部員で情報交換をしながら、単元構成や評価の観点を含む学習指導案の検討、改善を重ねた。授業提示後の改善授業においては、授業研究会の協議で出された改善点を生かした見直しが行われた。

大曲支援学校は、研究組織の中に教科部会・進路学習部会・自立活動部会を位置付けている（資料6）。各部会で、授業実践の評価を踏まえた協議を行い、関係する課題を整理した。この3部会と教育課程検討委員会が連携し、個別の指導計画、年間指導計画の目標、指導内

容の整合性について検討を行ったことにより、教育課程の実施、評価、改善が計画的に行われた。

平成30年度 秋田県立大曲支援学校 研究組織



教育課程検討委員会：校長，教頭，学部主事，学部副主事，分掌主任，教育専門監
授業実践を通じた教育課程の評価，検討，改善事項の整理，立案等を行う。

教科部会・進路学習部会・自立活動部会：各部会は学部副主事と各学部2名
課題を整理し，全校へ周知する事項について検討する。

特別支援教育に関する実践研究充実事業委員会：校長，教頭，教育専門監，研究主任，学部主事
実践研究の推進に向けて協議する。

県南特別支援学校教育課程等協議会：本校，せんぼく校，横手支援学校，稲川支援学校の教務主任，研究主任，教育専門監
教育課程編成について研究協議をする。

教科検討会：教頭，教育専門監，学部主事，研究主任
学習指導要領における教科の捉えや本校の教科別の指導の課題を明確にする。

資料6 「研究組織」

観点6：
新学習指導要領に対応した特色ある取組

6. 地域とのつながり方を意識した学校づくり

大曲支援学校本分校は「地域が教室」という考え方を教育活動の中心テーマとし、地域との日常的な交流や地域貢献活動といった地域に根ざした教育を実践している。比内支援学校本分校は、「街は大きな教室だ」を合言葉に地域との共催行事や交流及び共同学習を実施している。また、かつの校は、地域の特産である「りんご」を取り入れた特色ある生活単元学習「りんごプロジェクト」、たかのす校は、地域に根ざし、地域と共に生きる教育活動「絆プロジェクト」、せんぼく校は、地域の観光資源を教材として用いて学習を行う地域貢献活動「せんぼくいきいきプロジェクト」に取り組んでいる。

このように、秋田県では地域資源を効果的に活用した、特色ある学校づくりが行われている。